

寺
ごよみ

七月

一日 音沢お講
五日 雪ん子劇団
コラーレ公演
七日 寺報詰め作業
八日 真宗入門講座
一二日 清掃奉仕
一五日 永代祠堂会準備

永代祠堂会

十六日 中陣お講
仙婦物語者法要
戦没者法要
総代物語者法要
寺族物語者法要
十八日 内陣法名法要
夜の法座
十九日 内陣法名法要
ご講師 日置宗明師



姉の子、真弘が二歳の頃、「いやー」という否定の言葉をよく使う時期がありました。

ある日、爪切りを床に投げて、母親の「片付けなさい」という言葉に対して知らん顔をしました。繰り返して「自分でやったことは自分で片付けなさい」と母親は言います。

それでも「片付けない！」と言い返します。何度か繰り返しているのを見かねて「片付けんかったらお蔵に連れていくぞ」と言ってみました。

お蔵は、うちの一番隅にあつて、古めかしいたたずまいに重々しい三重の扉がある部屋で、私も子供の頃何度もそこへ入れられた記憶があります。その怖さは真弘も知っています。一瞬間がこわばります。それでもいつか片付けようとしません。しびれを切らして真弘を抱えお蔵へ連れて行こうとすると、急に泣き出しました。お蔵が近

親心

づくにつれて泣き声も大きくなり、いよいよ部屋に到着し、泣きじゃくる真弘を残し素早く扉を閉めました。真つ暗の部屋の中、恐怖が増したのか、泣き声も切り裂くような声になります。少ししてから自力で一枚目の扉をガラガラツと開けました。でもそこにはまだ次の扉があります。泣き声にならないほどの叫び声が聞こえてきます。とても胸が痛くなりました。

親はこんなにつらい想いに堪えてまで子を育てようとしていたのかと、親の願いの一端を知らされました。

阿弥陀仏は私のことを一人子のように願われているとあります。「お前をお前のままで抱きとつて、決して見捨てない」と言いながら、仏さまが泣いている姿が思い浮かんできました。

善巧寺住職

雪山 俊隆

寺報

善巧

発行

〒938-0862 富山県
黒部市宇奈月町浦山497
白雪山 善巧寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール info@zengyou.net
URL http://www.zengyou.net

七月十六日～十九日
えいたいしどうえ
永代祠堂会

講師 日置 宗明師

親鸞聖人七五〇回大遠忌

法要・記念事業実行委員会発足

先日の総代会を受けて六月二十二日午後二時集会所において第一回七五〇回大遠忌法要・記念事業実行委員会が開催されました。

実行委員会は、総代会の承諾を得て、寺方と有馬文義責任役員、総務部を中心に、各部会の部長・副部長で構成しています。



まず住職からの説明と、有馬文義責任役員の挨拶がありました。

神社仏閣設計施工専門業者立ち会いのもと、全員で本堂内外の傷んだ箇所を見ながら説明を聞きました。

本堂が危ない！

現在の本堂は明治十四年に建て替えられたもので徐々に老朽化が進んでおり、近年においても本堂階段縁側のシロアリ、台風時には本堂側面の白壁が抜け落ちたり、内陣への雨漏りなどがありました。その都度年間の営繕費で応急処置をしてきましたが、いよいよ防ぎ

きれないほどの状態になっています。具体的には内陣中央の天井が一部抜けています。また畳下の床材が老朽化して危険な状態です。修繕しておかなければ先々大変なことになるかねません。

今回の調査では、土台となる本堂床、さらに堂を支える石・木材の補強、内陣の天井の修繕などが急を要すると指摘されました。

た。総代方もこの際土台をしっかりと補修しなければ何も始まらないという意向で、再度念入りの調査を依頼しました。また、次案として、本堂

の次に古い建物となるお蔵を法物の展示・収蔵庫として、再生出来ないか検討していきます。（この件に関しては随時寺報でお知らせします。）
ご門徒さんに経済的な負担をかけねばならないことは大変苦しいことですが、何卒ご協力をお願いするばかりです。



内陣天井の穴



いたる箇所で隙間が目立ちます。



縁側の損傷も多々あります。



内陣余間の穴

総代会

五月十八日

平成二十年度総代会が五月十八日午後二時、門徒会館二階ホールで開催されました。住職と責任役員野島義春氏の挨拶に続き新総代の紹介と委嘱状授与が行われました。新総代六名は写真でご紹介します。



ついで説明があり承認されました。

野島義春氏の責任役員辞退のため有馬文義氏が、また、野畑市郎氏の監査辞退により森岡栄一氏と本波国昭氏が選任されました。三部会の部長・副部長は左記の通りです。

責任役員（総代長）

有馬文義氏

総務部

部長

中坂岩雄氏

副部長

栃沢光雄氏

嶋田藤一氏

教化部

部長

鬼原 猛氏

副部長

本波国昭氏

大藪実子氏

営繕部

部長

加藤友司氏

副部長

船屋幸弘氏

岡田栄一氏

引き続き、善巧寺における親鸞聖人七五〇回大遠忌法要・記念事業について住職から下記の説明がありました。

一、本山懇志の収納額

の状況

二、善巧寺における法要は本山の法要後に行う。

三、法要にともなう記念事業として本堂修復を希望するため修復箇所等を専門の業者に現場でもらい、その後、実行委員会で審議する。

四、実行委員会を立ち上げメンバー構成をする。

実行委員会に関しては、責任役員と総務部を中心に、各部会の部長・副部長をメンバーとすること、承諾されました。

以上で予定議事はすべて承認され閉会となりました。

総代会に引き続き鬼原猛教化部長の進行で教化推進協議会が開かれ、仏婦の大藪節子氏などから活動報告を受けました。

なお、第五期仏婦の役員選出がこの席で報告されました。新役員は写真の通りです。

すべて滞りなく終了し

たあとは宇奈月麦酒館で親睦会が行われました。

尚、今回

責任役員を

退かれた野

島義春氏、

総代の職を

退かれた前

総務部長嶋

田久之氏、

前営繕部長

岡田実氏、

愛本新の野

崎吉明氏、

中ノ口の橋

場正一氏、

栃屋の野畑

新総代、新仏婦役員方の紹介

野崎 弘さん
(愛本新)佐々木 護さん
(音沢)岡田 栄一さん
(熊野)開澤 義輝さん
(栃沢)東狐 義之さん
(中新)嶋田 藤一さん
(板屋)佐々木枝美子さん
(音沢)野村とち子さん
(音沢)佐々木ひさ子さん
(音沢)佐々木替子さん
(音沢)橘 照子さん
(浦山)大藪 節子さん
(下村)

花まつり

四月二十日

今年の花まつりは、前日の準備、当日共に、天気予報を覆す晴天に恵まれました。初参式の受式



者は七組。花の会コーラスをバックに新しいいのちの誕生を祝いました。式後は境内で縁日がスタート。特設舞台では、雪ん子劇団が一曲と、バイオリニスト野崎弘通さんが、

聞きなじんだ曲から民謡までを華やかに演奏してくださいました。





本山ご助成会

四月一日

黒部地区五ヶ寺持ち回りの助成会法要。今年は五年ぶりで善巧寺が会所となり、お昼過ぎから各お寺に所属するお世話方たちが参集されて午後一時半から本山ご助成会が勤まりました。

ご講師はおなじみの福井県勝山市の西宮寺住職本願寺派布教使の三寄霊証師。『ご恩報謝の念仏』という講題で歯切れ良く親しみやすい御法話をお聞かせくださいました。



夏のご助成会は八月一日午後一時半から勤まります。

春の清掃奉仕

四月五日

四月五日、総代さんと仏教婦人会の皆さんによって、春の清掃奉仕が行われました。農作業の忙しい時期にもかかわらず三十人ほどの方がご参加くださり、体を使った布施をどうもありがとうございました。



富山教区 仏婦連盟総会

四月三十日

富山別院において標記の会が開催され十四名が参加。野村とち子さんが献花、佐々木ひさ子さんが仏旗をもって入堂しました。



長岡専徳寺さまご来院



大阪教区中島組坊守方



黒部桜めぐりツアーの皆さん

八月

寺
ごよみ

一日 石田・生地・中

新お講

八日 本山ご助成会

真宗入門講座

一日 玉雪院釈俊之

一三回忌法要

一三日 青年盆会

一五日 こども盆踊り

一六日 盆参り

二四日 雪子劇団夏の

野外公演

九月

寺
ごよみ

二日 山陰教区仏婦来

院

八日 真宗入門講座

二〇日 お寺座ライブ

二四日 音沢報恩講

*日程詳細は地区ごとに別紙を配布します。



平成19年度 収支決算

(平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日)

(歳入)		(単位 円)	
費 目	予算額	決算額	対 比
1. 布施収入	11,150,000	11,250,274	100,274
年中行事	1,650,000	1,902,255	252,255
門徒法要	9,500,000	9,348,019	△151,981
2. 寺 費	4,856,000	4,878,000	22,000
3. 雑 収 入	100,000	106,100	6,100
4. 繰 越 金	351,671	351,671	0
合 計	16,457,671	16,586,045	

平成20年度 予算案

(平成20年 4月 1日～平成21年 3月31日)

(歳入)		(単位 円)	
費 目	決算額	予算額	
1. 布施収入	11,250,274	11,150,000	
年中行事	1,902,255	1,650,000	
門徒法要	9,348,019	9,500,000	
2. 寺 費	4,878,000	4,856,000	
3. 雑 収 入	106,100	100,000	
4. 繰 越 金	351,671	110,474	
合 計	16,586,045	16,216,474	

(歳出)		(単位 円)	
費 目	予算額	決算額	対 比
1. 寺院維持費	3,170,000	2,988,696	△181,304
宗 派 課 金	610,000	644,130	34,130
公 租 公 課	80,000	84,500	4,500
諸 会 費	40,000	28,000	△12,000
営繕修理費	1,800,000	1,600,056	△199,944
保 險 費	640,000	632,010	△7,990
2. 寺院運営費	6,060,000	6,286,875	226,875
教 化 費	660,000	502,736	△157,264
法 要 費	1,600,000	1,536,543	△63,457
会 議 費	200,000	162,909	△37,091
門徒接待費	300,000	313,087	13,087
事 務 費	400,000	422,377	22,377
管 理 費	1,600,000	1,639,223	39,223
専門教育費	1,200,000	1,200,000	0
雑 費	100,000	510,000	410,000
3. 人 件 費	7,200,000	7,200,000	0
4. 予 備 費	27,671	0	27,671
合 計	16,457,671	16,475,571	

(歳出)		(単位 円)	
費 目	決算額	予算額	
1. 寺院維持費	2,988,696	3,188,630	
宗 派 課 金	644,130	644,130	
公 租 公 課	84,500	84,500	
諸 会 費	28,000	28,000	
営繕修理費	1,600,056	1,800,000	
保 險 費	632,010	632,000	
2. 寺院運営費	6,286,875	5,820,000	
教 化 費	502,736	510,000	
法 要 費	1,536,543	1,550,000	
会 議 費	162,909	170,000	
門徒接待費	313,087	300,000	
事 務 費	422,377	400,000	
管 理 費	1,639,223	1,640,000	
専門教育費	1,200,000	1,200,000	
雑 費	510,000	50,000	
3. 人 件 費	7,200,000	7,200,000	
4. 予 備 費	0	8,144	
合 計	16,475,571	16,216,774	

$$\begin{array}{ccc} \text{歳入} & \text{歳出} & \text{次年度へ繰り越し} \\ 16,586,045 & - & 16,475,571 = 110,474 \end{array}$$

えいたいし どうえ 永代祠堂会

皆様の親やそのまた親を機縁に法要が勤まります。どうぞお参りください。

七月十六日 十一時 中陣お講

一時 仏婦物故者法要

十七日 一時 戦没者法要

総代物故者法要

寺族物故者法要

十八日 一時 内陣法名法要

七時 夜の法座

十九日 一時 内陣法名法要

講題 「帰敬頌のこころ」

講師 三重県信明寺副住職

日置 宗明 師



*恒例の仏婦バザーは四日間、お寺クイズは十九日昼に行います。

清掃奉仕

七月十二日午前八時半

(雨天順延)

体を使った奉仕活動。

役員以外の方

も是非ご参加

ください。



永代祠堂会準備

七月十五日午前八時半

青年盆会

八月十三日午後六時

こども盆踊り

八月十五日
午後六時半



雪ん子劇団 夏の野外公演

八月二十四日午後七時

お寺座ライブ

九月二十日午後六時

三回目となるお寺の音楽会です。

ほんこさん スタート

九月二十四日

音沢地区からスタートします。(詳細は別紙)

本山ご助成会

八月一日午後一時半

講題『世の中安穩なれ』
講師 三寄霊証師



盆参り

八月十六日午前十時半

特にこの一年で身内がお亡くなりになった方は、初盆としてどうぞお参りください。

玉雪院釈俊之 十三回忌法要

八月十一日午後二時

第二十世釈俊之の十三回忌法要です。

合 掌

七五〇回大遠忌お待ち受けがスタート。富山でも六月二十九日テクノホールでご門主様をお迎えして大会が賑やかに開催されました。三年後の本山へも是非一緒に参りいたしましょう。善巧寺でも実行委員会が発足しました。我が寺でも盛大に勤修されるよう共に進んでまいりましょう。

* * *

トップページで登場した真弘くんが誕生。赤ちゃんに会えて嬉しいと大喜びです。弥陀の花で弥花と命名されました。赤ちゃんを見ると周りの大人は心を洗われ、生きる喜びをもらいます。一方赤ちゃんがまことの人間に育つには周囲の人の豊かな愛情と信頼が大切。仏様を拝む生活を通して愛し子を仏の子と敬い、ともに育ちあっていきなさい。

